

令和元年第2回定例会一般質問 会議録（抜粋・概略）

令和元年6月26日

1 児童・生徒の学ぶことへの動機付けとそのモチベーションを支える包括的教育施策について

○松本議員

まず児童・生徒の学ぶことへの動機付けとそのモチベーションを支える包括的教育施策についてですが、H30年度学力定着度調査において、夢や目標を持っていると答えた児童の割合は全国平均並みですが、平日に2時間以上TVやゲームをするという回答が全国平均に比べ明らかに多いという現状について、どう分析されているかお聞かせ下さい。

～略～

○嶋野議長

教育次長

○北野教育次長

平成30年度に小学生対象に実施しました摂津市学力定着度調査についての質問にお答えします。

調査結果から、本市の子どもたちは、将来の夢やなりたい自分像は全国並みに持っていると考えられます。しかし、3年生以上で「2時間以上テレビやDVDを見たりゲームをしている」と答えた児童の割合は全国平均に比べ10ポイント程度高く、学年が上がるにつれてその割合が増える傾向がございます。

それらから考えますと、子どもたちには抱く夢やなりたい自分像はあるものの、夢の実現に向けて「今」何をなすべきかにつながっておらず、家庭での自由時間を学習等の夢への準備時間に充てるよりもゲーム等に費やす子どもが全国と比べると多いのではないかと捉えております。

～略～

○嶋野議長

松本議員。

○松本議員

これ以降は一問一答形式でお願いします。

まず、動機付けとそのモチベーションを支える包括的教育施策についてですが、夢と学ぶこととがリンクしていない子どもが多いという現状は理解しました。私はこれが学

力向上への最大の課題と認識しています。

名教師と評された方々の講演をしばしば聞く機会がありますが、総じて共通することは子どもたちのやる気を如何に引き出すかという所につきます。

よって、夢をより将来への具体的な目標に変え、夢を達成するために学ぶことが大切であることを意識させる。学ぶことへの動機付け、子ども達のやる気スイッチを押すことが必要ですが、どうお考えかお聞かせ下さい。

○嶋野議長  
教育次長

○北野教育次長

子どもたちが将来の生き方や進路に夢や希望をもち、その実現に向けて、主体的に学んでいくための動機付けは必要であると考えております。

そのために小中連携した9年間を見据え、学ぶことと将来のつながり、見通し、職業的社会的自立に向けた資質・能力をはぐくむ教育、いわゆるキャリア教育を推進いたしております。

例えばキャリア教育の中で、小学校3年での校区探検や、中学校2年での職場体験などを実施し、地域や事業所の方々、モデルとなる大人から学ぶことや、自分の好きなものや得意なこと、やってみたいことなど、今の自分について考えることを通して、将来の夢に向けた学習意欲の向上につなげていきたいと考えております。

○嶋野議長  
松本議員。

○松本議員

現状を踏まえ、さらに動機付けを意識すべきかと思えます。子どもたちのそれぞれの年齢、状況に応じ、やる気スイッチがあり、将来目標を抱くために参考となるキャリア教育や、本物に触れさせる場を増やすことも良いかと思えます。

そしてやる気スイッチを押し、そのモチベーションを維持するための施策も必要になります。目標達成への継続的支援が重要です。これについて、どうお考えかお聞かせ下さい。

○嶋野議長  
教育次長

○北野教育次長

ご指摘の通り将来の夢を実現するためには、目標の達成のために継続して努力することが大切でございます。

現在、学校では、子どもたちが将来の夢について、作文の作成や、卒業式・宿泊行事での発表の機会を設けております。

また学年や学期ごとになりたい自分や身に着けたい力などの目標設定を行っております。

そのうえで教員は子どもたちのその目標に向けた取り組みに対し、文章や声掛けを通して支援しております。教育委員会といたしましては、それぞれの取組みがキャリア教育の充実化を図る中で、系統だったものになるよう指導してまいります。

○嶋野議長  
松本議員。

○松本議員

是非、一貫性ある指導を要望致します。

なお、3人のお子さんが全員薬剤師になられたという方の話で、子どもたちに常日頃、将来どうなりたいのかを問い、自分でどうすべきかを考えさせ、そのうえでやりたいことをサポートしていたと、聞きました。主体的に、対話的に、そして深く学ばせることを体現しています。

この例も踏まえ、学ぶことの動機付け、モチベーションの維持、そしてさんさん塾などのモチベーションを発揮できる環境の提供、これらはいずれも欠けてはならないものと認識していますが、どうお考えかお聞かせ下さい。

○嶋野議長  
教育次長

○北野教育次長

教育委員会といたしましては、学ぶことに対する動機付けや、その意欲を維持し、そのための環境を整えることは重要だと捉えております。そのためにも、摂津SUNSU N塾や各小学校で実施している放課後しゅくだい広場を充実させ、子どもが学びたいときに学ぶことができる環境づくりを進めております。

また、子どもの周りにいる多くの大人が、日々の頑張りを認め、子どもの新たに学ぼうとする気持ちにつなげていくためにも、学校と家庭、地域とが連携すること重要だと捉えております。

○嶋野議長  
松本議員。

○松本議員

3つが必要であること、また家庭・地域も当然必要であると理解しました。

その上で、これについて教員の負担も考慮し、学校個々に任せるだけでなく、教育委員会として全体の取り組み・方向性は示すべきかと思いますが、どう考えかお聞かせ下さい。

○嶋野議長  
教育次長

○北野教育次長

子どもたちの学ぶことの動機付けについては教育委員会としても重要であると捉えております。

本市では、子どもたちに社会や集団との関わりの中で、他人の役に立った、認めてもらったという、いわゆる「自己有用感」を育むことが、学ぶことの動機付けにつながると考え、取り組んでおります。

具体的には、昨年度、第5中学校区をモデル地区として行われた、中学2年生が小学1、2年生に算数の授業をし、学習内容を丁寧に教え、小学生に頼られることを通して、自己有用感を高めていく取り組み、いわゆる「わくわく交流」などが挙げられます。

今後は、このような自己有用感を育むことなどを通して、学びことの動機付けを組織的に進められるよう、キャリア教育や小中一貫教育の推進に努めてまいります。

○嶋野議長  
松本議員。

○松本議員

組織的取り組みについて、是非とも進めて頂きたいと思います。

最後に、学ぶことは、点数を上げるためではなく、夢に近づくためであるという意識づけが大切であります。そのうえで、最も身近な教員が見本となる大人として、児童・生徒とともに成長していくプラスのスパイラルを作るように意識して施策に取り組むことも合わせて要望致します。